



キリスト教教育が目指すもの 教育の秋によせて

なぜ「あなたのためなのよ」と言っはいけないのか 牧師 立石尚志

このグリニッチ便りを読んで下さる方々の中にはキリスト教主義の学校に身を置かれていたことのある方も多いかと思う。カトリック系幼稚園、小中学校、プロテスタント系中学高校、大学等々、キリスト教主義の学校の多くは明治維新以降そして太平洋戦争後、欧米のキリスト教会の宣教局（ミッション・ボード）によって始められた。ミッションスクールと呼ばれる所以である。ではそのミッション…つまり使命とは何であったのか。その名が示す通り、キリスト教精神に則った教育を若い日本人達に施すことにあった。では、そのキリスト教精神とは何なのか。今回実際に聖書に基づいてキリスト教教育の根本的な理念を明確にできればと思う。

● 成長の目標は「キリストの姿」

キリストは弟子たちに対して「弟子がその師のようになれたら十分だし、しもべがその主人のようになれたら十分です。(マタイ 10:25)」と語られ、彼らが少なくともご自身のレベルまで達するように求められた。使徒パウロは「…子供たちよ。あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は…あなたがたのために産みの苦しみをしています。(ガラテヤ 4:19)」と語り、ガラテヤのクリスチャンたちがキリストの姿へと成長できるよう、全力を注ぐ決意を表した。使徒ヨハネはやがての日「…私たちはキリストに似た者となることがわかっています。(1ヨハネ 3:2)」と語り、成長の究極の姿は「キリストの姿」であると宣言した。皆がキリストのクローンになってしまうなどと心配する必要はない。神であるキリストこそ究極のビジネスマンであり、音楽家、文学者、哲学者、科学者、建築家、農家、医者、カウンセラーなのだ。人はどの方向に向かっても、正しい成長をするならば、「キリストの姿」に近づいていくと言うことができる。そして「キリストの姿」こそが聖書が示している成長の目標である。

● 十字架：隣人愛と自己犠牲

「人の子(イエス自身のこと)が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。(マルコ 10:45)」 「人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていません。(ヨハネ 15:13)」

キリストが地上に来られた目的は、全ての人が本来受けるべき刑罰を身代わりになって受けるためであった。これが「贖(あがな)いの代価」の意味であるが、具体的には、二千年前にイエスが十字架上で命を捧げるといふ形で実現された。人は神に対する罪を悔い、キリストの贖いを受け入れて神の子とされる。神の子とされたことで、再び本来の成長の道に戻されるのであるが、その目標が先ほど述べたように「キリストの姿」であるならば、私たちが目指しているのは十字架ということになる。十字架は「喜んで自分の命を他者にささげる」こと、隣人愛と自己犠牲のシンボルである。自分の命を他者にささげてしまったら、何も残らないじゃないか、と心配することも無用である。なぜなら愛に生きる者に対する

いちばん大きな約束は「永遠の命」だからである。

● 時間をかけ、訓練を通し、愛することを選り続けて人は成長する

ところで「隣人愛」「自己犠牲」が成り立つ、大切な条件が一つある。それはどこまでも「自発的」でなければならないことだ。「愛」は「自由」が無ければ存在しえず、強制の元に愛は存在しえない。ゆえに、神は人間が人生の各成長段階を辿る中で徐々に愛の性質を身に付けることができるように計画された。どういうことか。

- 1) 赤ちゃんはかわいいが究極の自己中心と言ってよい。
- 2) 幼児は弟や妹が生まれ、保育園/幼稚園に行くようになって、おもちゃをシェアしたりして少しずつ自己中心が削られていく。シェアをした方が楽しいことも分って来る。
- 3) 学校、職業訓練、社会人へと進む過程で自分が属する共同体のために自分を削っていくことを学び、人の役に立つことの喜びも理解するようになる。
- 4) 結婚し、配偶者と二人三脚で生きる中でさらに自己中心は削られ、
- 5) 子供が与えられ、自由になる時間もお金もますます減る一方で子供のために自分の命を使うことの意義も見い出せるようになる。
- 6) 子供を育て終わると社会全体に対しても人生経験から色々と貢献できるようになり、
- 7) 年齢を重ね、いよいよ最後になると、財産も経験もすべて子供や孫、共同体に残し、生まれた時と同様に何も持たない状態でこの地上を去る。

人生どのステージでも、そのステージに応じた訓練が組み込まれている。訓練には当然「いやだ」とか「いやいやながら」が伴うが、その「いやいや」を乗り越えて「愛すること」を選んだ時により大きな喜びがあることを発見できるようになっている。愛する選択をし続ける人は、家族を幸せにし、出会った人々を豊かにし、感謝されて、惜しまれて地上を去ることになるであろう。そのような人は幸いである。これとは逆に最後まで「自己中心」「わがまま」「けち」であり続けることを選んでしまう人もいる。「花咲かじいさん」「こぶとりじいさん」等の民話の教訓はここにある。

● 自己中心的世界観の蔓延

戦時中、聖路加病院の日野原医師の元で看護の働きをされていた方が、あの頃ほど生きることに意義を見出していた時はない、とおっしゃっていた。自分は輝いていた、というのだ。戦時中の極限状況の中で、まさにその方は他者のために命を投げ出して生きておられたのである。

今の日本は正反対ではないだろうか。学校も職業もすべて自己実現、自分探し、自己啓発、自分磨きのためであり、全てのことが自分に向かう。縛られたくないからフリーター、人と合わせたくないから何でもすぐ辞める。結婚は面倒だからしたくないし、子供は自分の自由がなくなるのでいらぬ。お金がかかるので子供は一人で十分。親の面倒は見たくない、子供からも世話になりたくない…。このような生き方は「自己中心に生きることこそ幸せ」という実は自分をますます不幸にする破壊的な世界観に基づいているだけでなく神が定めた成長の計画に真っ向から対立するのである。

戦後、教育ママゴンたちはしきりに子供たちに「勉強するのはあなたのためなのよ」と言い続けてきた。我々は勉強を「お国のため、村のため、家族のため」ではなく「私のため」にしてきたのだ。知らない間にかなり強烈な「自己中心的な世界観」を植えつけられてきてしまったと言えよう。物質的には全てを手に行っている今の日本人だが、幸せを感じている人が極めて少ないのは、自己中心的な生き方にあるのではないだろうか。

● 最後に

「お国のため」と言われて誤った戦争をしたわけなので、戦後、それが禁句であった事情は分かる。しかし「あなたのためなのよ」というのも「自分中心」を助長するばかりで間違いだった。「神のため」と言うのも一歩間違えば、自爆テロになりかねず、大変危険であることも分る。では八方塞がりなのか？ 否！ 歴史の真ん中に「十字架」が立てられている。神の一人子キリストが自ら犠牲を払うために歴史に介入され、愛の模範を率先して示されたのである。神は私たちがキリストならう者になるように願っておられる。私たちに内に「キリストの姿」が形造られる過程こそ、真の成長の道、喜びのある人生への道なのであり、キリスト教教育の目標なのである。 ■

「思いを越えた神の恵み」

2010年7月11日礼拝における証し

K.T.姉



●私は伝道者だった祖母と、母の愛と祈りの中で育てられました。小さい頃から、神様の存在を疑ったことはありませんでしたが、両親は教会に行っていないでし、家では家族で聖書を開いたり祈ったりすることはありませんでした。小・中学生の頃は教会学校に通いましたが、聖書のことはほとんど心にたくわえられていませんでした。自分はクリスチャンだと思っており、お祈りもしましたが、神様の存在は遠くて良く分かりませんでした。

●自分の罪を自覚するようになったのは高校に入ってからです。中学を卒業する時、担任の先生が母に「聖美は高慢だ」と伝えたことがきっかけになりました。その時から自分の内面の人を裁いたり、さげすんだりする思いや、人の目を恐れる自分の内側を認識し始めました。外見はしっかりしているように見えますが、心を閉ざし、孤独になり、自分のみにくさに苦しみ、自分を嫌いになっていきました。突っ張ってパーマをかけ、化粧をし、年上の人とつき合ったりもしました。

●神様が私を個人的に知ってくださることを悟ったのは大学受験の時です。音大受験は一校しか受けられないので、落ちたらどうしようというプレッシャーで押し潰されそうになっていました。ある晩母が枕元に来て「神様、あなたは聖美の道を最善に導いてくださる方です。落ちて最善、受かっても最善です。あなたにゆだねます。」と祈ってくれました。不思議なことにその祈りを通して、恐れが消えて、心が軽くなったのです。神様は私を最善に導かれる方なのでベストを尽くしたらあとはゆだねればよいことが分かりました。

●神様は、大学への道を開いてくださり上京して大学の寮での生活が始まりました。神様が導いてくださったことが嬉しくて、すぐに教会へ行きたいと思い、祈りつつ紹介された教会へいくつかが行って見ました。私が決定的

に神様に出会ったのは大学1年の5月のある晩、借りてきた礼拝メッセージのテープを寮のベッドの上でイヤホンで聞いていた時のことです。99匹と迷い出た1匹の羊のたとえのお話でした。突然聖霊が私の上に激しく臨まれ、神様がこんな私を探し求め、ありのまま愛してくださり、喜んで受け止めてくださっていることがはっきりと分かりました。18歳のその晩、私は喜びを持って生涯、神様に従う決心をしました。それから30数年経ちましたが、今、私は本当に幸せです！神様はご自分のみことばを信じて従う者を訓練し、祝福してくださり、私のささげた数々の祈りに豊かに答えてくださいました。その中から3つを短くお分かります。

●1つ目は、砕きと癒しの経験です。私の父は仕事を真面目にし、遊ぶこともしない人でしたが、頑固で怒りが強く、母と子どもたちは暴言暴力を受けました。その言動に筋が通っていませんでしたので、私の心は傷つくと同時に父に対する激しい怒りと憎しみに満ちて行きました。クリスチャンになってすぐに示されて、神様と父に赦しを求めました。しかし、心が深く傷ついていたので一緒に居ると心が騒ぎ、裁く思いが湧き上がってきてしまいます。その頃、神様の導きによって家族で教会を始めました。皆クリスチャンで献身して伝道をしているのに私の心には家族を裁く思いが次々と湧いてきます。人には話せないのどこにも持って行き場が無く、苦しくて神様に「あわれんでください！」と心の中で叫び続けていました。神様は家族と言う人間関係の中で私のプライドを徹底的に砕いてくださり、人のことを裁いている自分自身がどうしようもない罪人であることをとことん示されたのです。それまで自分は父よりはマシだと思っていたのですが、私も父も神の前に裁かれるべき者であると同時に、憐れみによって赦され生かされている者であることが分かったのです。クリスチャンになって9年目、その時から私の心は癒されていき、神様との関係も人との関係も安心できるようになり、自由になっていきました。父に対する憎しみが消え、敬うことができるようになり、いと

おしくさえ思うようになりました。これは人間の努力によるのではなく、御霊のお働きであると神様をあがめています。

●2つ目は家族を通して教会が建てられたことです。神様は私の家族をあわれんでくださって私が神様に従い始めたあと、母が立ち返り、弟が救われ、父も教会へ行くようになりました。その後、両親の家を改造して集会室を造り、看板を出し、弟が結婚して牧師になり神学校へ行きながら家族全員で教会を始めました。1985年のことです。その後弟は別の働きに変わりましたが、代わりに新しい牧師が送られ、97年には別の場所に素晴らしい会堂が立ち、両親は今も続いてそこに集っています。愛知県知多半島の、教会の少ない伝道の困難な地域で、取るに足りない私たちの家族を用いて教会が建てられたことは私たちの思いを越えた恵みでした。主を崇めています。

●3つ目は、結婚の祝福です。父を見て育った私はすっかり男性不信になりました。結婚しても幸せになれないと思っていました。しかし、三浦綾子さんのエッセイを読み、また素直なクリスチャンの夫婦に出会いビジョンが与えられ祈るようになりました。神様は私の祈り、願いを越えて素晴らしいパートナーを与えてくださいました。お互いに安心しつつ、助け合い、戒め合い、励まし合い、祈りながら共に神様にお仕えできることはなんと幸せだろうとこの18年間いつも神様と夫に感謝しています。私たちは結婚と同時に教会で働くように導かれました。牧師夫婦として足りない者であり、失敗もし、悲しいことやつらいことにも会いますが、それらにまさる喜びがあります。それは生きておられる神様のみわざを見ると言う喜びです。忍耐と信仰が試されます。しかし神様は「主に信頼する者は失望させられることがない」という約束をいつも守ってくださいました。残る生涯も「助けてください。あなたを信頼し待ち望みます。」と祈りつつ歩みます。私のような小さな者にも働いてくださる神様の素晴らしい愛を知って欲しい、それが私の切なる願いであり、一人でも多くの方が真の神様に立ち返るようにと祈っています。■

■ 10月～12月の集会・行事予定

※下記以外にも週の間に、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。■夏休み期間中、集会も不規則になりますのでご確認ください。

【定例集会】

★ 日曜礼拝 / 10:00～11:30

グループ会 / 11:45～12:15

大人、子供それぞれのクラスに分かれます

【各種集会】

★ グリニッチ 家庭集会

原則第一金曜 10:00am (場所は電話で)

★ グリニッチ 聖書を読む会

金曜 10:00am (場所は電話でご確認ください)

★ スタンフォード 聖書を読む会

毎週水曜 1:15pm 場所: 井上宅

★ ハートフォード 聖書を読む会

月三回木曜 9:30am 山田宅

月一回木曜 10:30am テイラー宅

ハートフォード・メンズ・フェローシップ 第3木曜 7:00pm

★ ハリソン 聖書を読む会

隔週火曜 10:00am 場所: ハリソン長老教会

★ マウントキスコ 聖書を読む会

毎週水曜 8:00pm 場所: 平野宅

★ ハリソン・メンズ・パイブル・フェローシップ

第1, 2, 4木曜日 8:30pm 場所: 荒木宅

● 秋のチャリティー・バザー 11/06(土) 9:30am～4pm <http://jgclmi.com/2010BazaarFlier.pdf>

● 秋のキリスト教教養講座 10/30, 11/13, 11/20, 12/4, 12/11, 12/18 (土) 9:30am～12pm

● クリスマス礼拝 12/19(日) 4:30pm & 子供クリスマス会 12/19(日) 3:00pm

★ハーベスト・タイム: <http://www.harvesttime.tv/>

★CGNTV インターネットTV放送 <http://japan.cgntv.net/>

★ BBN 聖書放送 <http://www.bbnradio.org/japanese/>

★英語で説教を聞きたいなら! <http://www.oneplace.com/>

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609、e-mail: jgclmi@verizon.net